

（2021年4月に『お寺の日本地図』（文春新書刊））

追っているテーマは「現代社会と仏教」。面白いテーマだと思います。お寺の世界はたいへん興味深い。

本日は教養講座とお寺の未来についてお話ししていきます。仏教学、宗教学といった学問は例えば佛教大学にもありますが、お寺自体のことは皆さん、良く分かっておられないのではないかと。つまり、お寺、寺院のことを学ぶ場はないのですね。「寺院学」という学問がない。実を言えば、私も自坊のことをしっかり分かっているとは言いがたい。

そこで、コロナ禍の2020年3月から8月にかけて全国のお寺の取材をしたのです。全都道府県に入って各県数カ寺ずつ巡ってみよう、と。すると、いろんなことが見えてきました

取材をしてモノを書く、これを四半世紀続けています。今も本を書く仕事を続け、取材で追っているテーマは「現代社会と仏教」。面白いテーマだと思います。お寺の世界はたいへん興味深い。

本日は教養講座とお寺の未来についてお話ししていきます。仏教学、宗教学といった学問は例えば佛教大学にもありますが、お寺自体のことは皆さん、良く分かっておられないのではないかと。つまり、お寺、寺院のことを学ぶ場はないのですね。「寺院学」という学問がない。実を言えば、私も自坊のことをしっかり分かっているとは言いがたい。

そこで、コロナ禍の2020年3月から8月にかけて全国のお寺の取材をしたのです。全都道府県に入って各県数カ寺ずつ巡ってみよう、と。すると、いろんなことが見えてきました

取材で追っているテーマは「現代社会と仏教」

自坊は京都・嵯峨野の西の端、嵐山にある小さなお寺で、私は次男です。南隣が臨済宗天龍寺派の大本山・天龍寺で、竹林のトンネルがあり、古刹、名刹が並ぶ観光地に立地しており、檀家は120軒ほどです。

●取材で追っているテーマは「現代社会と仏教」

大学時代に僧侶の資格は取ったのですが、祖父も、父も住職をしながら別の仕事を持っていたし、私もいったんは東京で大学に通いながら、マスコミの仕事をしていました。テレビ局の報道センターで記者のアシスタントをしていたとき、オウム真理教事件があり、卒業後には新聞社で記者、その後、経済系の出版社に移り、取材経験を重ねました。

講演

20年後のお寺のあり方を考える

浄土宗 京都教区 正覚寺住職
ジャーナリスト

鵜飼秀徳

昨年11月4日の「総本山知恩院 おてつき運動婦人研修会」から要旨に加筆し採録しました。



鵜飼秀徳（うかい ひでのり）

1974（昭和49）年、京都市生まれ。1996（平成8）年、浄土宗教師資格取得。正覚寺副住職を経て今年から住職。大学在学中に在京テレビ局の報道局記者助手、卒業後は新聞記者、経済誌記者を経て、2018（平成30）年に独立。一般社団法人・良いお寺研究会代表理事。大正大学招聘教授、佛教大学などで非常勤講師。著書に『寺院消滅～失われる「地方」と「宗教」』『仏教抹殺～なぜ明治維新は寺院を破壊したのか』『お寺の日本地図～名刹古刹でめぐる47都道府県』など。テレビ、ラジオのコメンテーターなどでも活躍中。